

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：大隅地域振興局 農政普及課

課題名③		有機栽培茶への取り組みと輸出向け茶生産体制の構築				
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6	1			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	5	2			
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	5	2			
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	5	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	7	0			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	4			
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	3	4			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	4			
全体的な意見・提言等		・生産者にしっかりした説明をして有機茶の推進をお願いします, 碾茶工場を肝属に建てたいものです(前田)				

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：大隅地域振興局 農政普及課

課題名③	有機栽培茶への取り組みと輸出向け茶生産体制の構築					
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	8	0			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6	2			
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	6	2			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5	3			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5	3			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	5		・あまり農業者が見えてこなかった	発表の中で指導対象の農業者が見えなかったことは説明が足りなかった。今後、農業者への指導状況がわかるように説明していく。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	3	5			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	4		・今後の茶の方向性は難しい課題、普及の力を期待します？	普及指導員として技術力や経営管理の指導力を高めて、農家と関係機関と共に儲かるための将来の茶経営を提案していく。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	6	2			
全体的な意見・提言等		・市場、マーケットニーズ(海外)を踏まえ早急に取組が必要な内容と感じる、関係機関と生産者の一体的な取組をどう進めるか課題である と考える、生産者の意向は一致しているので方向性としては問題ないので市町も含めた取組をお願いしたい(鹿屋市農政課) ・期待のもてる課題であり発表としては良かった、こまごまなスライドを見せすぎなどが残念(肝付町畜産課) ・輸出に関しては有機栽培の推進が必要なので一緒になって取り組みたい(JA鹿児島きもつき)				

肝属地域農業の「稼ぐ力」の向上対策（茶の産地づくり）

発表課題

有機栽培茶への取り組みと 輸出向け茶生産体制の構築

大隅振興局農林水産部
農政普及課茶普及係

1 課題を取り上げた背景

茶価低迷と燃料や肥料費高騰による厳しい茶業経営

2 茶の現状（国内）

（1）国内年々作付け面積、荒茶生産量ともに減少し、供給過多

需要（年間 73,700t）

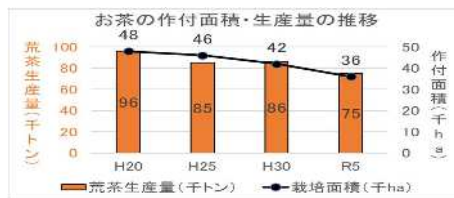
1 リーフ茶の消費量 36,700t
年々減少

2 ドリンク茶の消費量 29,500t
横ばいから増加

3 海外へ輸出量 7,500t
年々増加

供給（年間 74,600t）

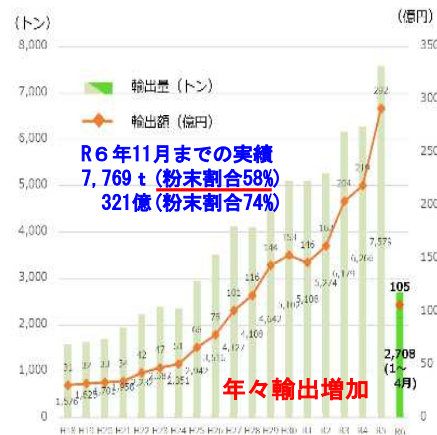
1 荒茶生産量
一番茶 27,400t
二番茶 20,100t
三番茶 5,500t
秋冬番茶 21,600t



海外への輸出に対応する
茶生産が必要

（2）輸出茶の増加と共に有機栽培茶が年々増加 （世界はMATCHAブーム）

【緑茶の輸出実績（世界）】



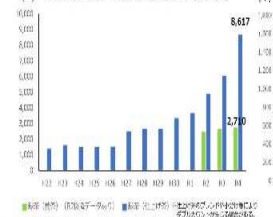
【緑茶の輸出価格の推移】

H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
2,812	3,093	3,005	2,867	3,069	3,304	3,494	3,851

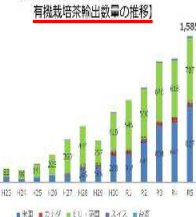
19. 有機栽培（有機JAS）茶の輸出について

- 有機栽培茶は海外でのニーズが高く、同時に残留農薬基準をクリアする可能性も高いことから、輸出に適していると評価されている。
- 茶の有機JAS格付実績は増加傾向。
- 有機認証制度の同等性等の仕組みを活用した有機茶輸出数量は増加傾向。特にEU・英国向けでは茶の輸出量に対し大きな割合を占めている。

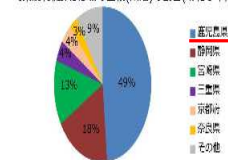
【茶の有機JAS格付実績の推移（国内）】



【同等性の仕組みを利用した有機栽培茶輸出量の推移】



【県別有機JAS格付の面積（茶畑）の割合（令和5年）】



【茶の輸出に占める有機茶の割合（令和5年）】

	輸出量（t） (A)	有機栽培茶 輸出量（t） (B)	割合（%） (B/A)
全国	2,936	827	28.2
鹿児島	913	707	77.4

※有機栽培茶の輸出量は、同等性の仕組みを利用したものと、JAS認証を受けたものとの合計。

資料：鹿児島県茶業振興課

碾茶（抹茶）について

煎茶と碾茶は、栽培と製茶が異なる。



茎と葉脈を除き
石臼で挽く
抹茶

		煎茶	碾茶
栽培	被覆資材	遮光率70%	遮光率85%
	被覆日数	約10日	約20日
製茶	乾燥方法	揉みながら	揉まずに

3 肝属地区の茶の現状

- ① 栽培面積、荒茶生産量、茶工場、栽培農家ともに減少。
1戸当の栽培面積は6.6haに拡大。

	H30年度	R4年度	R5年度	
栽培面積(ha)	572	518	506	減少
荒茶生産量(t)	1,561	1,226	1,208	
茶工場数	53	41	40	
栽培農家戸数	110	82	77	
1戸当の栽培面積(ha)	5.2	6.3	6.6	増加
有機JAS認証面積(ha)	16	27	35	

- ② 有機JAS認証面積は、平成30年に比べ倍増した。
栽培面積の約1割弱と少ない。
碾茶工場（県内19工場）が存在しない。

4 課題と対策

(1) 収益確保のため

- ① 需要の多い有機栽培茶や輸出向け茶の生産拡大が必要
② 栽培・製造技術向上による単価向上が必要

(2) 有機栽培の収量・品質を確保するため、栽培技術向上が必要。

(3) 輸出向け茶生産拡大のために、相手国に応じた防除体系の確立が必要

5 成果目標

項 目		成果目標(実績)					
		現状	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
		R5	R6	R7	R8	R9	R10
有機JAS認証面積(ha)※1	目標		40	45	50	55	60
	実績	35					

※永年作物の茶は、3年間の転換期間を経て有機JAS認証となる
→ 早めの取り組みが必要

6 有機栽培茶生産拡大への取り組み（活動状況）

課題：病害虫の被害による収量品質への影響が懸念

(1) 有機栽培茶の摘採芽における病害虫被害調査

表 病害虫被害芽の割合									
茶期	品種	20cm×20cm 枠内芽数	チャノミドリヒメヨコバイ	チャノキロアザミガ	チャノホリガ	チャノカゲハバキ	炭疽病	合計	調査日
二番茶	やぶきた	46	37%	0%	0%	0%	0%	37%	6月5日
二番茶	あさのか	47	4%	0%	6%	0%	0%	11%	6月5日
二番茶	つゆひかり	66	14%	6%	3%	0%	0%	23%	6月5日
三番茶	つゆひかり	71	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7月18日
秋冬番茶	つゆひかり	15	27%	13%	0%	0%	0%	40%	10月3日
秋冬番茶	あさのか	9	0%	0%	0%	0%	0%	0%	10月3日

※摘採芽を調査。



二番茶 有機栽培
品種「つゆひかり」

結果：チャノミドリヒメヨコバイ等の吸汁加害は見られたが、
収量品質に影響する被害は小さかった。

(2) 有機栽培茶の生産技術習得（現地検討会）

- ① 錦江町たしろ有機茶研究会(会員8名)
・摘採判定
・茶樹の更新研修会
・整枝方法研修会
- ② 鹿屋市
・二番茶後の茶樹更新方法
(実証ほ設置と現地検討会)



栽培上の課題
・枝が少ない
・枝の太さが不均一
・枝の樹皮が古い

(3) 碾茶の生産技術習得

碾茶の理解と生産方法習得

- ① 関係機関(市町JA)と
研修会
9月3日
- ② 生産者と研修会
11月28日



11/28 地区茶業振興会主催
(深蒸し煎茶と碾茶研修)

ご清聴有難うございました